

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

I コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方 更新

当社グループとしての「企業価値の持続的向上」を実現するには、社会との信頼関係を強化するための企業の社会性・透明性の向上を含めコーポレート・ガバナンスの確立が不可欠であると認識しています。

また、当社グループは、グループとしてのシナジーの最大化とグループ一体経営を実現するために、グループ企業理念、グループ経営ビジョン、グループ経営方針等に基づき経営活動を推進しています。

【グループ企業理念】

インフォコムグループは、ICTの進化を通じて社会のイノベーションに貢献する。

【グループ経営ビジョン】

市場、技術の変化を先取りし、自らが常に進化を続けることで、高品質で革新的なサービスを提供し、ICTの新たな活用シーンを次々と創出する特長ある企業グループを目指す。

【グループ経営方針】

- (1) 利益ある成長を持続するとともに企業価値の向上を目指す。
- (2) コンプライアンスを規範とした経営を行う。
- (3) 市場の変化や技術の進化へのスピーディな対応を行う。
- (4) 働き甲斐のある企業を志向し、社員の能力向上に努める。
- (5) 共創とICTを通じて社会の発展に貢献する。

これらに基づき、市場や技術の変化を常に先取りし、高品質で革新的なサービスを提供する事で、個性豊かなグループとしてICTの進化を通じて社会のイノベーションに貢献します。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】

当社は、JASDAQ上場会社として、コーポレートガバナンス・コードの基本原則のすべてを実施しています。

2. 資本構成

外国人株式保有比率

10%以上20%未満

【大株主の状況】 更新

氏名又は名称	所有株式数(株)	割合(%)
帝人株式会社	15,880,000	55.13
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,062,700	3.68
インフォコムグループ従業員持株会	826,300	2.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	771,400	2.67
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	450,127	1.56
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	438,400	1.52
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	420,000	1.45
Deutsche Bank AG London 610	418,052	1.45
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	304,900	1.05
KBL EPB S.A. 107704	269,100	0.93

支配株主(親会社を除く)の有無

——

親会社の有無

帝人株式会社 (上場:東京) (コード) 3401

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 JASDAQ
決算期	3月
業種	情報・通信業
直前事業年度末における(連結)従業員数	1000人以上
直前事業年度における(連結)売上高	100億円以上1000億円未満
直前事業年度末における連結子会社数 更新	10社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

親会社との間にシステム開発受託等の取引があります。価格その他の取引条件は、市場価格等を勘案し決定しており、妥当性はあると考えております。取引の決定に際しても、取締役会において決議している社内規定に則って当社独自の意思決定を行っていることから、取締役会としてその手続は正当性があるものと考えております。

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情 **更新**

帝人(株)は、当社議決権の58.1%(直接所有)を所有する親会社です。

当社グループは、同社グループの中でIT事業を推進するグループと位置付けられ、同社グループに対しては、情報通信システムの開発及びその運用サービス等を提供しています。同社グループにおいて、当社グループの事業は他の事業グループの各事業と類似しないため、当社グループの自由な事業活動を阻害される状況にないと考えています。

親会社グループとの取引における価格その他の取引条件については、「4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針」に記載のとおりです。

直前に終了した事業年度における取引内容については、有価証券報告書(第35期)の「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表【注記事項】【関連当事者情報】」に記載のとおりです。人的関係については、経営情報の交換等により、当社が同社グループの一員として果たすべき役割の遂行を円滑化する目的で、当社代表取締役社長が同社のIT事業グループ長を兼任しています。また、同社の帝人グループ執行役員1名が当社の非常勤取締役を、同社常勤監査役1名が当社の非常勤監査役を兼任しています。

以上のような取引・人的関係がある一方、一定の重要事項について同社との事前協議を行うことのほかは、当社が事業活動を行う上での同社からの制約はなく、当社の経営判断について一定の自主性・独立性が確保されていると考えています。

II 経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査役設置会社
------	---------

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	9名
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	社長
取締役の人数	6名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数	2名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	2名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k		
津田 和彦	学者													
藤田 一彦	他の会社の出身者													

※ 会社との関係についての選択項目

※ 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」

※ 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びfのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- k その他

会社との関係(2) 更新

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
津田 和彦	○	国立大学法人筑波大学大学院ビジネス科学研究科経営システム科学専攻教授	津田氏は、大学ベンチャー企業の経営に携わった経験等に基づき、これまで、社外取締役として公正かつ客観的な立場に立って適切な意見等を頂きました。今後も引き続き取締役会意思決定に際して適切な指導、監督をお願いすることで当社のコーポレートガバナンス強化に寄与していただけたと考えています。 また、証券取引所の定める独立役員の要件を全て満たしており、一般株主との間に利益相反を生じるおそれがないと判断し、独立役員として選任しています。

藤田 一彦	○	(株)オートバックスセブン 海外事業推進部アドバイザー	藤田氏は、(株)タニタ取締役としての経験や豊富な海外事業経験に基づき、これまで、社外取締役として公正かつ客観的な立場に立って適切な意見等を頂きました。今後も引き続き取締役会の意思決定に際して適切な指導、監督をお願いすることで当社のコーポレートガバナンス強化に寄与していただけたと考えています。 また、証券取引所の定める独立役員の要件を全て満たしており、一般株主との間に利益相反を生じるおそれがないと判断し、独立役員として選任しています。
-------	---	-----------------------------	---

指名委員会又は報酬委員会に相当する任意の委員会の有無	なし
----------------------------	----

【監査役関係】

監査役会の設置の有無	設置している
定款上の監査役員数	5名
監査役員数	4名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況

監査役は、監査計画、監査実施結果等の定例報告会を開催するとともに、必要に応じて会計監査人と意見交換を行える連携状況にあります。また、内部監査部門から監査計画の報告を受けるとともに、監査講習会及び必要に応じて監査実査に陪席する連携状況にあります。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役員数	2名
社外監査役のうち独立役員に指定されている人数	1名

会社との関係(1) 更新

氏名	属性	会社との関係(※)												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
池田 一志	他の会社の出身者			△		△		△			△			
小倉 弘行	他の会社の出身者													

※ 会社との関係についての選択項目

※ 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」

※ 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
- c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- d 上場会社の親会社の監査役
- e 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- i 上場会社の主要株主（当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者）
- j 上場会社の取引先（f、g及びhのいずれにも該当しないもの）の業務執行者（本人のみ）
- k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者（本人のみ）
- l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者（本人のみ）
- m その他

会社との関係(2) 更新

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
----	------	--------------	-------

池田 一志		当社の親会社である帝人(株)の出身者 (2015年6月、当社監査役就任前に退社)	池田氏には、帝人(株)の管理部門等の幹部として培った企業管理に関する高い見識と豊富な経験に基づく提言を期待しています。 なお、同氏は現在及び過去において、一般株主と利益相反が生じる立場にはありません。
小倉 弘行	○	元東京日産コンピュータシステム(株)常勤監査役	小倉氏には、東京日産コンピュータシステム(株)の監査役として培った監査業務の高い見識と豊富な経験に基づく提言を期待しています。 また、証券取引所の定める独立役員の要件を全て満たしており、一般株主との間に利益相反を生じるおそれがないと判断し、独立役員として選任しています。

【独立役員関係】

独立役員の人数	3名
---------	----

その他独立役員に関する事項

当社は、独立役員の資格を満たす社外役員を全て独立役員に指定しています。

【インセンティブ関係】

取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況	業績連動型報酬制度の導入、ストックオプション制度の導入
---------------------------	-----------------------------

該当項目に関する補足説明 更新

当社グループの連結業績目標の達成度に応じた業績連動型報酬制度を採用しています。
また、取締役の報酬と株価の連動性を高めることにより株主の皆様とメリットやリスクを共有することで、当社の取締役及び執行役員に対しこれまで以上に当社グループの中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を一層高めることを目的に、株式報酬型ストックオプション制度を導入しています。

ストックオプションの付与対象者 更新	社内取締役、その他
---	-----------

該当項目に関する補足説明 更新

社内取締役及び執行役員に対し、グループ全体の株主価値向上を意識した事業活動に繋がるインセンティブとして2013年からストックオプション制度を導入しました。

【取締役報酬関係】

(個別の取締役報酬の)開示状況	個別報酬の開示はしていない
-----------------	---------------

該当項目に関する補足説明

有価証券報告書、営業報告書(事業報告)において、社内取締役・社内監査役・社外役員の別に「定款又は株主総会決議に基づく報酬」の支給人員数と支給額の総額を開示しています。

報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無	あり
----------------------	----

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

- 株主総会の決議(平成14年6月27日改訂)による取締役の報酬総額限度額は300百万円で、取締役個々の報酬額は報酬総額限度額の枠内で取締役会で決定しています。
当社は業績連動型報酬制度を導入しています。連結営業利益ROA(総資産営業利益率)を基準とし、これに営業利益の改善度・達成度と取締役個人の業務執行状況の評価を加えた報酬金額としています。
- 株主総会の決議(平成14年6月27日改訂)による監査役の報酬総額限度額は100百万円で、監査役個々の報酬額は業績による変動のない定

額報酬で、報酬総額限度額の枠内で監査役の協議により決定しています。

3. 株主総会の決議(平成24年6月14日決議)による株式報酬型ストックオプション制度は、各事業年度に係る株主総会の日から1年以内に割り当てる新株予約権の上限を600個とし、その発行価額は1項に記載の取締役の報酬総額限度額の枠内の扱いとしています。取締役個々に割り当てる新株予約権の数は連結営業利益ROAIに連動したテーブルに基づき、取締役会で決定することとしています。

【社外取締役(社外監査役)のサポート体制】

スタッフ部門の組織がサポートする体制を整えています。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要) 更新

【取締役会と執行役員制度】

取締役会は経営戦略、事業計画の執行に関する最高意思決定機関として毎月開催しており、法令、定款に定められた事項に限定せず、決議事項、報告事項を幅広く議案とする事により、実質的な最高意思決定機関として機能しています。取締役会は、6名の取締役で構成されています(提出日現在)。

また、それに加えて(1)経営の意思決定、監督機能と業務執行機能の分化、業務執行の迅速化と柔軟な体制の編成等を目的とした執行役員制度、(2)全社横断的施策、課題に対する横断機能の強化を目的としたチーフオフィサー体制、(3)業務執行に関する合意形成、認識統一を図るための社長直轄会議体である執行役員会の設置等、経営上の組織体制や仕組みを整えています。

なお、当社の取締役は9名以内とする旨、定款で定めております。また当社の取締役は、株主総会において議決権を行使する事ができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数の決議によって選任する旨、及び累積投票によらないものとする旨を、定款で定めています。

※当社の執行役員は、会社法第2条に規定された委員会設置会社における「執行役」とは異なります。

【監査役監査及び内部監査】

当社は監査役制度を採用しています。監査役は取締役、執行役員会及び主要な会議に出席し取締役と執行役員の業務執行を監視するとともに、社長との情報交換会等を通じて日常から意見交換を行っています。

監査役会は監査役全員をもって組織され、年に10回以上開催しています。また、内部監査部門として監査室を設置し、定期的かつ随時必要な内部監査を実施しています。

【社外取締役及び社外監査役】

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名です(提出日現在)。

当社は、会社法に規定される社外性の趣旨に則り、また、東京証券取引所が定める独立役員の独立性判断基準の趣旨を尊重し、一般の株主との利益相反を生じる恐れのない社外取締役を選任することにより、経営の透明性の確保及びコーポレート・ガバナンスの一層の強化を図っています。

社外取締役津田和彦氏は平成26年6月13日開催の当社第32回定時株主総会において選任されました。当社と津田和彦氏との間に特別な利害関係はありません。また、津田和彦氏は国立大学法人筑波大学大学院教授です。当社と国立大学法人筑波大学との間に特別な利害関係はありません。

社外取締役藤田一彦氏は平成28年6月16日開催の当社第34回定時株主総会において選任されました。当社と藤田一彦氏との間に特別な利害関係はありません。また、当社と藤田一彦氏の兼職先との間に特別な利害関係はありません。

これらのことから、当社は社外取締役と一般株主との間に利益相反を生じるおそれがないと判断し、東京証券取引所に津田和彦氏及び藤田一彦氏を独立役員として指定、届け出しています。

津田和彦氏は、国立大学法人筑波大学大学院において経営システム科学分野の教授職にあるとともに、自らも大学ベンチャー企業の経営に携わっていることから、その知見や経験を活かして当社経営の監督、社外取締役としての職務の適切な遂行をお願いできるものと考え、招聘しています。また、経営システム科学分野において自然言語理解及び情報検索等を研究しており、同分野の専門家としての長年の知見を当社に提供していただけることも期待しています。

藤田一彦氏は、(株)タニタにおける取締役としての経験や豊富な海外事業経験に基づき、取締役会の意思決定に際して適切な指導、監督をお願いすることで当社のコーポレートガバナンス強化に寄与して頂けるものと考え招聘しています。

社外監査役2名は、専門的知見と豊富な経験を活かし、適法性及び妥当性、予防性の観点から監査役機能を第三者としての立場から十分に行って頂ける人物である事を基準として選定しています。

常勤の監査役である池田一志氏は、平成27年6月12日開催の当社第33回定時株主総会において選任されました。当社との人的関係または取引関係その他の利害関係はありません。また、就任前に親会社である帝人(株)及びそのグループ会社を退職しており、当該会社との特別な利害関係はないこと、当社と当社親会社との間において当社の自由な事業活動を阻害される状況になく、当社役員の経営判断のもと独自に意思決定を行っており当社の独立性は十分に確保されていることから、一般株主との間に利益相反を生じる恐れがないと判断しています。

社外監査役の小倉弘行氏は、平成28年6月16日開催の当社第34回定時株主総会において選任されました。大手自動車販売会社グループにおいて法務、総務などの会社管理部門を指揮した経験に加え、上場IT企業及びその関連会社において監査役として監査に携わられてきたことから、これらの経験を活かし当社グループの経営、業務執行の監査を適切に行って頂ける方であると考え招聘しています。当社と小倉弘行氏との間に特別な利害関係はなく、一般株主との間に利益相反を生じるおそれがないと判断し、東京証券取引所に独立役員として指定、届け出しています。

当社は社内外を問わず広く適任者を得られるよう、当社と取締役(業務執行取締役等であるものを除く。)との間において、及び当社と監査役との間において、当社への損害賠償責任を一定範囲内に限定する契約を締結できる旨を定款に定めています。その契約内容の概要は以下のとおりです。

・取締役(業務執行取締役等であるものを除く。)または監査役が任務を怠ったことにより当社に損害賠償請求を負う場合は、会社法第425条第1項の最低責任限度額を限度として、その責任を負う。

・上記の責任限定が認められるのは、取締役(業務執行取締役等であるものを除く。)または監査役がその責任の原因となった職務の遂行について善意で且つ重大な過失がないときに限るものとする。

当社は、独立役員である社外取締役が取締役会のメンバーとして適時・適切に意見・提言を行っています。また、監査役も取締役会、執行役員会等主要な会議に出席し、監査役の立場から適時・適切に意見・提言を行うとともに、一般株主との間に利益相反を生じる恐れのない社外監査役が、独立的な立場から専門的かつ高い見識をもって適時・適切に意見・提言を行っています。以上のように独立役員である社外取締役や監査役による経営監視が十分に機能する体制を整え、コーポレート・ガバナンスを確保していると考えことから、現状の体制としています。

[顧問弁護士、会計監査人による会計監査の状況]

顧問弁護士は、複数の弁護士事務所と顧問契約を締結し、必要に応じてアドバイスを受けています。

当社の会計監査につきましては、有限責任 あずさ監査法人を選任しており、監査業務を執行した公認会計士に、継続年数が7年を超えるものはいません。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由 更新

当社は監査役会設置会社です。

また、「2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項」に記載のとおり、各機関が有効に機能しているため、現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択しています。

Ⅲ 株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況 更新

	補足説明
株主総会招集通知の早期発送	2017年6月開催の定時株主総会に係る招集通知は、法定期日の5日前に発送しました。また、発送日にTDnet及び当社ホームページにおいて公開しました。
集中日を回避した株主総会の設定	従前より集中日を避け、早い日程での開催を実施しています。また、開始時刻についても、2013年6月開催の定時株主総会から、開会時刻を午後6時30分とする等多くの株主様にご来場いただけるよう工夫をしています。
電磁的方法による議決権の行使	2006年6月20日開催の第24回定時株主総会より、株主名簿管理人が提供するインターネット議決権行使サイトを活用し提供を開始しています。併せて、同サイト及び自社ホームページに招集通知を掲載し、議決権の行使を促しています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・株主総会招集ご通知/決議ご通知を会社ホームページに掲載 ・株主総会において、報告事項や議事運営のビジュアル化 ・法定事項のみならず、業績見通しや中期経営計画をご説明 ・株主総会の終了後に、株主総会の模様を動画で配信 また、2013年6月開催の定時株主総会から、株主総会終了後に株主様と役員との懇談会を実施し、株主様からご意見をいただく機会を設けています。

2. IRに関する活動状況 更新

	補足説明	代表者自身による説明の有無
アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催	第2四半期及び通期決算の発表日に説明会を実施しています。	あり
IR資料のホームページ掲載	有価証券報告書、四半期報告書、決算短信、説明会資料等をホームページに掲載しています。また、説明会や株主総会の模様を動画配信しています。	
IRに関する部署(担当者)の設置	CFOを情報取扱責任者に、また、専任組織として広報・IR室を設置しています。	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況 更新

	補足説明
社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定	<p>当社グループの「企業価値の持続的向上」を表現するには、社会との信頼関係を強化するための企業の社会性・透明性の向上を含めコーポレート・ガバナンスの確立が不可欠であると認識し、企業理念と経営方針を定め、取り組んでいます。</p> <p>【グループ企業理念】 インフォコムグループは、ICTの進化を通じて社会のイノベーションに貢献する。</p> <p>【グループ経営方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 利益ある成長を持続するとともに企業価値の向上を目指す。 (2) コンプライアンスを規範とした経営を行う。 (3) 市場の変化や技術の進化へのスピーディな対応を行う。 (4) 働き甲斐のある企業を志向し、社員の能力向上に努める。 (5) 共創とICTを通じて社会の発展に貢献する。

環境保全活動、CSR活動等の実施

インフォコムグループのステークホルダーの皆様にとっての企業価値の持続的向上がCSR活動の本質ととらえ、CSR最高責任者を設置して、社会との信頼関係の強化、高い倫理観にもとづいた事業活動や透明性の高いコーポレートガバナンスの確立に取り組んでいます。

CSRに関する情報は、当社ホームページでご覧いただけます。

<http://www.infocom.co.jp/aboutus/csr/>

IV 内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

11項目で構成する事項について決議し、推進しています。

(1) 当社及び子会社の取締役等の職務の執行が法令及び定款に適合する事を確保するための体制

- ① 当社は、経営方針及び行動指針において「コンプライアンスを規範とした経営」、「高い倫理観に基づく行動を何より優先する」と定めており、当社及び子会社の役員・使用人は、法令を遵守し企業人・社会人として求められる倫理観・価値観に基づき誠実に行動する。また、これらの方針の下、日々の業務を遂行する上での行動規範及び行動基準を定めており、その実効性の確保を図る。
- ② 取締役の職務執行については、役員を対象とする役員規程を定め、社会規範・倫理として法令等の遵守を図ると共に、監査役会の定める「監査役監査基準」に従う監査の実施により、公正且つ適切な経営を実現する。
- ③ コンプライアンスの責任者としてCSRO (Chief Social Responsibility Officer) を任命し、インフォコムグループ横断的なコンプライアンス体制の整備及び問題点の把握に努める。

(2) 当社及び子会社の使用人の職務の執行が法令及び定款に適合する事を確保するための体制

- ① 当社は、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合する事を確保するため、インフォコムグループの経営方針、行動指針、行動規範及び行動基準等に基づき、継続的にコンプライアンス教育・啓発の推進を行い、また、当社及び子会社の役員及び使用人は、それぞれの立場でコンプライアンスの実践的運用を図る。
- ② 当社及び子会社の役員・使用人がグループにおける重大な法令違反やコンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合、直接通報を行う手段を確保するものとして、社外の弁護士によるコンプライアンス・ホットラインを設置する。この場合、通報者の希望により匿名性を保障するとともに通報者に不利益がない事を確保する。
- ③ 重要な通報については、その内容と会社の対処状況・結果を適切に当社及び子会社の役員・使用人に開示し、周知徹底する。
- ④ 業務分掌規程・職務権限規程・個別権限基準表により組織の業務分掌と職位の責任と権限を明確に定め、役割に応じた意見を稟議等に記録する事で、組織間の相互牽制及び個人への権限の集中化を防ぐ。

(3) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 取締役の職務執行に係る情報については、社内規程に基づきその保存媒体に応じて適切且つ確実に検索性の高い状態で保存及び管理し、その保存期間中は、いつでも閲覧可能な状態を維持する。
- ② CEOは、上記1. における情報の保存及び管理を監視・監督する責任者となる。

(4) 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 当社の取締役会は、企業価値を高め、企業活動の持続的発展を実現する事を脅かすあらゆるリスクに対処する。
- ② 統一的なリスクマネジメント指針として「グループリスクマネジメント規程」を定め、同規程に沿ったリスク管理を行う体制としてCSROを委員長とする「グループリスクマネジメント委員会」を設置し、グループの業務執行に係るリスクを統合的に把握、評価、管理する。
- ③ 重大な事件・事故発生に伴う非常事態における混乱の回避と損失の極小化等その影響を最小限とするために、「危機管理マニュアル」に従い、グループにおいて統一的な危機管理対応がとれる体制を構築する。また、大規模災害等の緊急事態発生を想定し、事業中断による損失を最小限にとどめるために、事業継続計画(BCP)を策定し、事業の継続を確保するための体制の整備に努める。

(5) 当社及び子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われる事を確保するための体制

- ① 当社は、インフォコムグループとしての業務の効率性を確保するために必要な規則をグループ規程及びグループ各社の規程として整備する。これらの規程は、法令の改廃・職務遂行の効率化の必要性がある場合は、随時見直すものとする。
- ② 当社は、定例の取締役会を毎月1回開催する他に、業務執行上の必要性に応じて、しかるべき時期に決定が行えるよう適宜臨時取締役会を開催する。また、投資案件については取締役等で構成する投資委員会にて審議を行う。
- ③ 当社の取締役会の決定に基づく業務執行は、職務権限規程及び業務分掌規程において、各職位者の権限と手続きを詳細に定める事とする。これらの規程は、法令の改廃・職務執行の効率化の必要性がある場合は、随時見直すべきものとする。
- ④ 当社は、効率的かつスピーディーな経営を行うために業務の意思決定・監督機能と業務の執行機能を分離し、執行役員制を導入する。また、取締役会の意思決定の妥当性と合理性を高めるため、独立社外取締役を選任する。

(6) インフォコムグループにおける業務の適正を確保するための体制

- ① インフォコムグループは、経営方針及び行動指針において「コンプライアンスを規範とした経営」、「高い倫理観に基づく行動を何より優先する」と定めており、法令を遵守し企業人・社会人として求められる倫理観・価値観に基づく体制整備を行う。また社会秩序や健全な事業活動を阻害する個人、団体とは関わりを持たず、特定株主からの要求や民事介入暴力等の反社会的勢力に対して毅然とした態度で対応し、その介入を許さない事を基本的な考え方とし、それに基づく体制整備を行う。
- ② 全てのグループ会社社長が「グループリスクマネジメント委員会」の構成員となり、「グループリスクマネジメント規程」に従い、グループ統一的な方針に基づくコンプライアンス・リスクマネジメントの体制整備を行う。
- ③ 当社は、子会社において経営上重要な事項を決定する場合は、グループ会社管理規程等に基づき、当社へ事前協議等が行われる体制を構築する。また、業務については定期的に、業務上重要な事項が発生した場合は都度、当社に報告が行われる体制を構築する。
- ④ 当社の監査室は、インフォコムグループにおける内部監査を実施又は統括し、グループの業務全般にわたる内部統制の有効性と妥当性を確保する。
- ⑤ 当社は、株式上場会社として全ての業務執行を独自の経営判断に基づき行う。
- ⑥ 当社の監査役は、自らまたは監査役会を通じてグループ全体の監視・監査を実効的かつ適正に行えるよう会計監査人及び監査室との緊密な連携等の確な体制を構築する。

(7) 監査役職務を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項、および当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

- ① 他の業務執行ラインから独立性を保った監査室スタッフが監査役会からの要求に従い、監査役の行う監査業務を補助する。
- ② 監査役職務を補助するにあたって、監査室スタッフは取締役の指揮命令を受けない。
- ③ 監査役の行う監査業務を支援する監査室スタッフの独立性及び実効性を確保するため、考課及び異動に関しては監査役会の意見を訊くものとする。

(8) 当社及び子会社の取締役等及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- ① 監査役は、重要な意思決定の過程及び業務執行状況を把握するため、会社の重要な会議に出席することができる。

②当社及び子会社の役員・使用人は、以下に定める事項について、発見次第速やかに監査役に対し報告を行う。

ア 会社の信用を大きく低下させるもの、又はその恐れのあるもの

イ 会社の業績に大きく悪影響を与えるもの、又はその恐れのあるもの

ウ 行動指針、コンプライアンスに関する違反で重大なもの

エ その他上記アからウに準じる事項

③当社及び子会社の役員・使用人は、監査役の求めに応じて事業の報告を行うとともに、インフォコムグループの業務及び財産の状況の調査に協力する。

(9) 監査役へ報告をした者が当該報告をした事を理由として不利な取扱いを受けない事を確保するための体制

①インフォコムグループは、監査役へ報告を行った役員・使用人に対して、当該報告をした事を理由として不利な取扱いを行う事を禁止する。

(10) 監査役 of 職務の執行について生ずる費用又は債務の処理、費用の前払又は償還の手続に関する方針

①監査役 of 職務の執行に必要な費用又は債務は当社が負担し、会社法に基づく費用の前払い等の請求があった場合はこれに応じる。

(11) その他監査役 of 監査が実効的に行われる事を確保するための体制

①監査役は、必要に応じ、取締役、重要な使用人並びに監査法人と意見交換を実施する。

②監査役 of 監査が実効的に行われるために、会社の業務執行に関する全ての情報は随時、閲覧可能な状態におく。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

インフォコムグループは、経営方針及び行動指針において「コンプライアンスを規範とした経営」、「高い倫理観に基づく行動を何より優先する」と定めており、法令を遵守し企業人・社会人として求められる倫理観・価値観に基づく体制整備を行う。また社会秩序や健全な事業活動を阻害する個人、団体とは関わりを持たず、特定株主からの要求や民事介入暴力等の反社会的勢力に対して毅然とした態度で対応し、その介入を許さない事を基本的な考え方とし、それに基づく体制整備を行う。

1. 買収防衛策の導入の有無

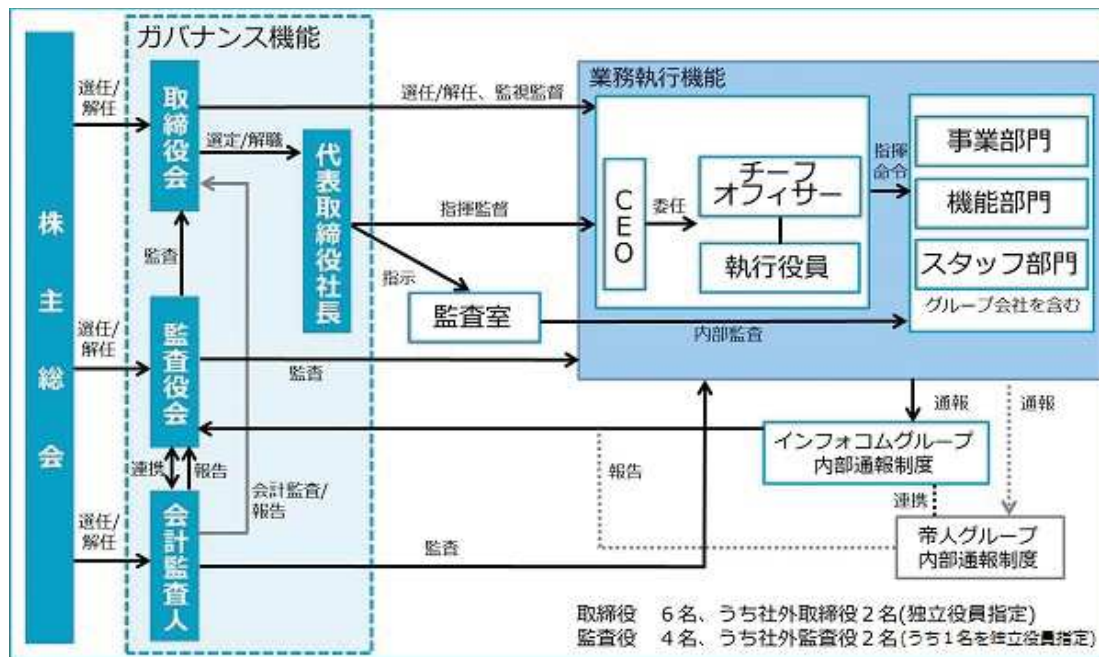
買収防衛策の導入の有無

なし

該当項目に関する補足説明

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項 更新

<企業統治の体制>



■ 適時開示体制の概要

